

第3学年 保護者の皆様

4月に実施されました「全国学力・学習状況調査」の結果がでましたので、その結果に基づき、本校の教育課題を明らかにし、学力向上に向けた今後の取組等について、次の資料にまとめましたのでご一読ください。

- ◆『我が校の強み弱み分析・評価シート』（表面）：本校生徒の強み・弱み及び現状等についての分析結果
- ◆『我が校の学ぶ力向上策』（裏面）：今回の学力調査の結果分析に基づく、学力向上に向けた授業改善等、本校が取り組む具体的な内容

なお、分析結果については全教員が共通理解し、学ぶ力向上策を見直し、授業改善策等、新たな取組を推進していきたいと考えております。保護者の皆様もご一読いただき、ご理解ご協力をお願いします。

【平成29年度「全国学力・学習状況調査」分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立粟津中学校

【結果について】

《概要》 国語・数学ともにほぼ全国平均並みだが、国語はA問題、数学ではB問題が、全国平均を上回っている。また、2教科ともに文章で答えたり説明したりする記述式問題の無解答率が全国と比べ高いものの、数学では正答率が高くなっている。正答率分布表からも最上位層に次ぐ次の層が厚いことと併せ、学力格差の二極化傾向を示しており、本校の課題の一つと言える。

《強み・弱み》

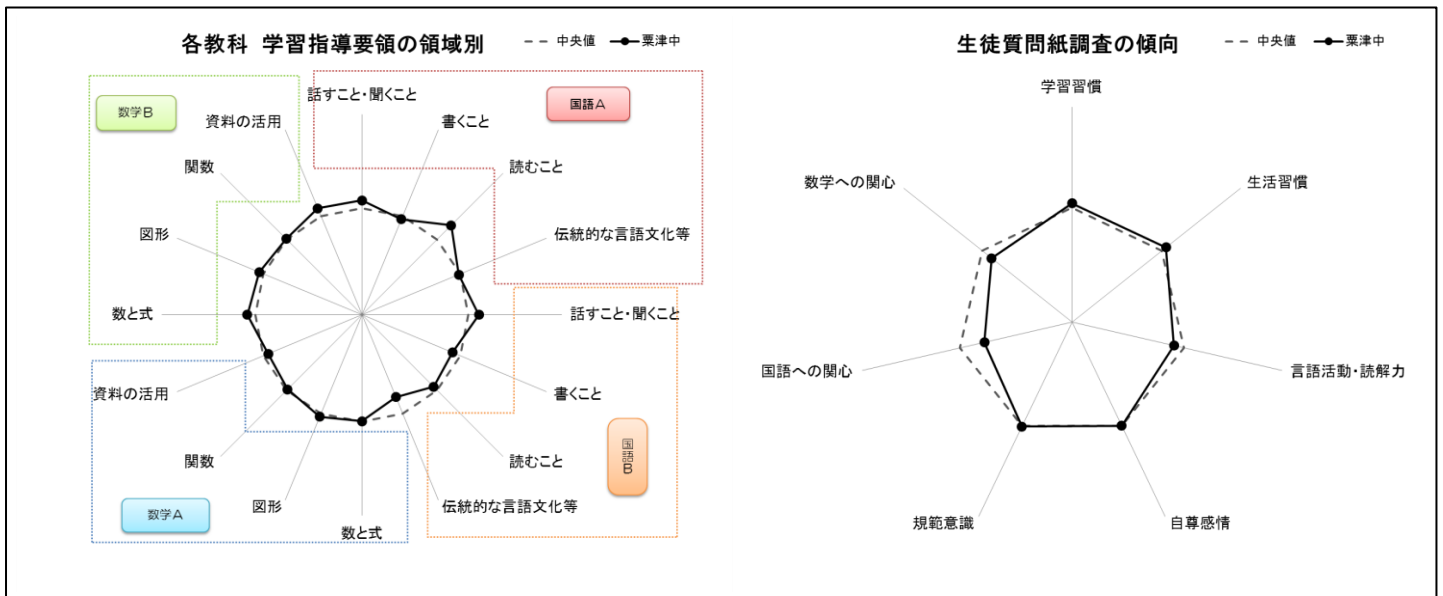
国語では、勉強への関心・大切さ・必要性を感じている生徒の割合は全国値と比べ低く、苦手意識を持つ生徒の割合が高い。また、数学では、好き嫌いや内容理解において、肯定・否定の二極化傾向が著しい。

* 国語：「話すこと・聞くこと」の正答率が高い。「漢字の書き取り」や「言語に対する知識理解」は低い。このことが、書く力の弱さに結びついていると考えられる。

* 数学：「図形」の正答率が高いが、「関数」がやや低く、記述式問題の無解答率も高い。しかし、その一方で、「数学的な技能」の数値が高く、記述式問題を得意とする生徒も多い。

◇ 強み・弱みレーダーチャート ◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。

破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を要する項目）と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

本校では、「学びとる・思いやる・やり抜く」生徒の育成を学校目標に掲げ、生徒は、日々の教育活動を通し、集団生活の中で達成感・成就感等を味わいつつ自尊感情を高めている。しかし、「難しいことにも失敗を恐れず挑戦する生徒」や「自分にはよいところがある」と感じている生徒の割合は全国に比べ低い。また、学習面では「学び合い学習」12年目を迎え、「授業での生徒間同士の話し合い活動」の定着や「めあて・ねらい」の提示も昨年に比べ着実に定着してきている。その一方で、聞く姿勢や発表方法に向上が見られなかったり、学力定着状況や意欲に二極化傾向が依然として見られたりする。このことから、基礎・基本の習得・定着に向け、授業でのユニバーサルデザインの実践、誰もが分かる魅力ある授業づくりをなお一層推進していく必要がある。